

手足口病の警報発表について(注意喚起)

県内で手足口病の患者が増加しています。

県が実施している感染症発生動向調査の令和6年第27週において、大崎保健所管内における1定点医療機関当たりの患者数が7.00人となり、警報開始基準(5人)を超えました。

手足口病は、夏季に流行のピークを迎える感染症です。今後、感染者の増加が予想されますので、感染拡大を予防するため、食事の前や排泄後の石けんと流水による手洗いの徹底等をお願いします。

～手足口病とは～

原因:コクサッキーウイルス及びエンテロウイルスにより感染します。

症状:口の粘膜、手のひらや足の甲または裏などに2～3mmの水疱性の発しんが現れます。

発熱は約3分の1の方に見られますが、高熱になることはあまりありません。

基本的には3～7日で治癒しますが、稀に重い合併症等を引き起こす場合があります。

好発年齢:小児(特に5歳以下)に多いです。

潜伏期間:3～5日

感染経路:飛沫感染(咳やくしゃみで飛散した飛沫の中のウイルスにより感染します。)

接触感染(水疱の内容物や便に排出されたウイルスが付着した手で口や鼻などの粘膜に触れることにより感染します。)

治療方法:症状を緩和する対症療法が行われます。

その他:治癒した後も、3～4週間は便にウイルスが排泄されることがあるため気をつけましょう。

上記の症状が見られる場合は早めに医療機関を受診しましょう。特に乳幼児同士の濃厚な接触が起こりやすい保育施設などでは感染が広がりやすいため、子どもの体調の変化に気をつけましょう。

～手足口病の予防～

- 1 食事の前や排泄後、おむつ交換の後など、こまめに石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。
- 2 家族や身近な方が感染した場合は、タオルの共用を避けましょう。
- 3 乳幼児がよく触れる場所やおもちゃなどの消毒をこまめに行いましょう。
- 4 熱中症には十分注意した上で、場面に応じてマスクを正しく着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

○ 各保健所管内における1定点医療機関当たりの手足口病患者報告数

保健所名	仙南	塩釜	大崎	石巻	気仙沼	仙台	宮城県(合計)
23週	1.50人	0.50人	0.83人	0.17人	0.00人	0.37人	0.49人
24週	1.50人	0.60人	2.50人	1.00人	0.00人	1.11人	1.15人
25週	0.75人	0.60人	2.67人	1.00人	0.00人	1.19人	1.15人
26週	0.25人	1.50人	3.33人	1.17人	0.50人	2.33人	1.95人
27週	1.00人	2.20人	7.00人	3.67人	0.50人	4.07人	3.65人

○ 参考となるホームページ

厚生労働省「手足口病に関するQ&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

国立感染症研究所「手足口病とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html>

宮城県結核・感染症情報センター

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans/kansen-center.html>

宮城県における1定点医療機関当たりの手足口病患者報告数

